

平成26年度 校区外部評価

学校評価表（最終のまとめ）

学校名

品川区立御殿山小学校

評価項目1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、 重点的な実践内容など)</small>	基礎学力とは、「児童・生徒が生涯にわたって学び続けようとする態度とそれを支える知恵」と捉え、自ら進んで学び解決できる子、進んで表現し課題を解決できる子、自信をもって解決できる子の育成を図る。				
	評価指標 (成果指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見
① 国語・算数の学期末の観点別到達度が学級平均80%以上になる。	A	全学年全教科とも80%以上を達成。90%以上の場合もある。低学力の一部の児童には個別対応を継続していく。	習熟度別少人数学習や放課後の補習、帯学習が成果を出している。教員の努力も見られる。	学年や学級の平均点が標準点に到達している。理解の遅い児童への対応は地道に続けていきたい。	学力の二極化を解消していくことが更に重要と考える。
② CRT学力テストにおいて、どの学年も各実施教科の到達度が80%以上になる。	A	全学年が達成できた。教科担任制で指導している高学年で到達していない教科があった。	帯学習や放課後の補習などを年間を通して取り組んでいる成果である。継続を期待する。	6年の社会科は教科担任制で指導したが到達が不十分であった。次年度に向けた改善事項である。	教科担任制のねらいに沿った成果ができるように励んでいく。
③ 4学年における品川区学力到達度調査において、4教科とも90%以上の問題で区の到達基準を上回る。	A	4教科とも十分に達成した。教科領域によっては平均並みの項目もあった。	今後の課題についても対応していくことを期待する。	学力向上委員会において結果を分析して対策をホームページで公表し、学校としても対策していく。	全校が実施する学力テストも含め、結果の分析、対応策を講じ反映していく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

本校の基本的な考え方 <small>(特に身に付けさせたい力、重点的な実践内容など)</small>	社会性・人間性の育成は、基本的な生活習慣はもとより、人間関係の良好な形成や規範意識の高揚と子供一人一人の感性を醸成する活動を十分に与えることによって高められた社会的役割を認知するものであると捉え、これらを通して人間尊重の精神・態度の育成を図る。					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 子ども達は、挨拶運動や日常の学級指導を通して、明朗な挨拶や会釈ができています。	B	挨拶隊の取り組みなどでよい挨拶ができる児童が増えた。日常で自分からできる児童はまだ少ない。	不審者への注意も必要なので、いかなる時でもよい挨拶を要求することは難しい。家庭とも連携を取り、自然な挨拶ができればよい。	挨拶は次年度も年間を通した生活指導の重点にしたい。会釈までできる児童は少ないが、確実に増えてきている。	挨拶が当たり前のものとなるように指導をしていきたい。	
② 子ども達は、学習や生活の規律を守り、節度のある学校生活が送れている。	B	学習規律はおおむね良い。歩き隊の取り組みを通して廊下を走る児童は減ったが、生活面で落ち着かない児童もいる。	工事中の環境の中、児童は節度を持った生活ができていた。高学年児童の座っているときの姿勢の悪さが気になった。	新校舎になったので安全上もたくさんのルールの設定が必要になる。児童の生活の状況をよく観察して、随時、ルールの設定や修正をする1年間にしたい。	規範意識の高揚は今後も継続していく。姿勢については、毎朝「のびのびタイム」として姿勢をよくする体操を取り入れ実践していく。	
③ 子ども達は、学級内の係活動や当番活動、委員会活動などに責任をもって、協力して取り組んでいる。	A	委員会や学級の係活動、学校行事に意欲的に取り組む児童が多い。	児童の主体的な活動を大切にしてきたことは学習発表会などでも認められた。子供たちが活発であり元気の良さが感じられる。	新校舎になったが、委員会活動や係活動、当番活動を新学期当初より通常に発足させ推進していきたい。	環境は自分たちでつくるものであることを大人も子どもも実践していきたい。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 小中一貫教育の推進

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	・学力向上の観点から	小中一貫教育の最終目標である「自学自習の体得」を目指し、9年生での出口管理を行うために知識・技能の習得から知恵の創造に向けた教育活動を推進し、保護者・児童・地域からの信頼を得る。			
	・人間形成の観点から	「自分も相手も大切にする」心をはぐくみ、正しい人権感覚を醸成することに努め、「時を守り、場を清め、礼を正す」を全ての教育活動の根底に据えて指導することにより、高い規範意識の育成に努めていく。			
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明
① 教師は、市民科を計画的に実施し、日常においても実践させ、品格ある市民の育成を図っている。	B	学校行事や校外学習と市民科を関連させて実践的な指導ができた。教科書単元の学習は不十分であった。	市民科授業地区公開講座で保護者とも上手に意見交換ができていた。今後も年間計画やステップを踏んだ学習を心がけてほしい。	外部講師や校外学習、いじめ予防なども、その学年の指導内容や単元に位置付けて効果的に指導していきたい。	市民科の反映は子どもたちの行動、言動に表れるものであることを再認識し指導していく。
② 学校は、教科担任制やステップアップ学習を推進させ、中学校での学習にスムーズな接続を図っている。	A	5・6年は理科、社会、音楽、図工で教科担任制を実施している。ステップアップ学習では、児童のめあてに応じて、基本の定着や活用問題などに取り組んでいる。	学校体制でステップアップ学習に取り組んでいる。発展学習への対応もあり成果を上げている。中学校での学習にもつながっていく。	国語と算数で各3コースを設定して、課題別の学習を行っているが、習熟度別への配慮もある。次年度も効果が上がるよう協働で推進していく。	コース設定の指導内容を更に適切なものにし、効果をあげていきたい。
③ 学校は、保幼小及び小中の連携を推進し成果を上げるよう、取り組みを工夫している。	B	保幼とはオータムフェス、昔遊び、給食体験、1年生体験など多くの取り組みを行っている。連携中学校との児童生徒の交流は少ない。	秋の遊びや昔遊びを通して低学年は保育園や幼稚園と連携していた。幼児のために一生懸命準備をしている姿が微笑ましかった。	5年生も字を書かせたり給食を体験させたりして交流した。今後も小学校の具体的な場を経験できる交流を計画したい。	今年度も推進していきたい。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	学校・家庭・地域が相互に補完し合う三位一体の融合した関係づくりを通して、三者の責任・役割を明確にし、それぞれが担う体制をつくるため、積極的な交流と意見交換の場を設定していく。 ・学校公開や授業公開、ゲストティーチャー、地域教材の活用 ・スポーツ指導者や町会長、青年部との会合や合同レクの開催 ・PTAやオヤジの会との交流 ・PTA、地域行事への参加					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての教職員の意見	校長の態度表明	
① 教師は、保護者や地域の意見や相談に誠意をもって、丁寧に対応している。	A	担任、副担任、管理職、カウンセラーなど、保護者の相談に丁寧に対応している。	常に問題点を共通理解し複数の教員で迅速に対応できている。学校が保護者や地域とお互いに尊重し合える関係になっている。	今後も丁寧な対応に努める。旧校舎閉鎖前には、多くの卒業生や同窓会に校内を開放し、丁寧に対応した。	不安→不満→不信の連鎖が起こらないように対応していく。	
② 学校は、地域や外部人材を積極的に活用して、教育の効果を上げようとしている。	A	各種出前授業をどの学年も学校公開で積極的に行った。保護者からも好評を得ている。	外部人材を効果的に積極的に活用している。助産師など保護者の専門家の協力も得られている。	学校公開日に出前授業が偏った感がある。平常時にも柔軟に計画し、落ち着いた取り組みにしている。	外部人材の活用の仕方について、教職員で意志統一をし、取組んでいく。	
③ 学校は学校便りや学年便り、ホームページにおいて、教育活動を積極的に公開している。	A	HPの更新頻度は高まった。学校便りや食材情報は毎回確実に素早くアップした。	本校は就学前幼児の保護者の閲覧ニーズが高いが、更新頻度が高まり、期待によく答えている。	2名のホームページ担当、学年の担当などを立てて内容の充実にかけてきた。次年度も継続する。	今後も継続していく。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目 5 環境整備・美化

本校の基本的な考え方 <small>(重点的な取組内容など)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然をより一層豊かにすることとともに環境美化教育の推進、安全で清潔な施設・設備、学習環境を担保し、快適な生活環境・空間を作り、心の安定を保ち、健全な身体を育成する。 ・校舎内外掲示物の工夫。 ・自然環境の設備、校舎内外の整美 ・再開発、自校改築のための安全策 					
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
評価		評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明	
① 教師は、教室内や廊下など、児童の日常生活環境を整え、学習効果を上げている。	B	限られた場所を活用して計画的な掲示・展示ができた。長い期間貼りすぎた掲示物もあった。	いつ学校に行っても児童の学習の成果が廊下や掲示板にあふれていた。見るものを楽しませ児童の励みにもなっている。	新校舎には展示場所が多くある。今後も児童の活用の様子が感じられる掲示や展示に心がけたい。	新校舎での児童の活動の様子を積極的に展示、掲示していきたい。	
② 教師は、児童に清掃活動に責任をもって取り組ませ、美化意識やその実践力を育てている。	A	教師がしっかり指導・看護して清掃指導した。意欲的に仕事する児童が多い。たてわり清掃も効果があった。	縦割り班活動として掃除などの奉仕活動を行っているのがよい。用務主事の掃除もよく行き届いている。	清掃場所や清掃用具が新校舎対応になったので、勝手の違うことも増えたが、きれいな学校いつまでもきれいに気持ちよく使わせたい。	きれいにする指導とともに汚さない指導を重点化していきたい。	
③ 学校は、掲示物や備品、教具を適切に配置・保管して、環境整備と美化に努めている。	A	保管場所が少ない中、よく管理できた。3学期は新校舎への引越しに向けて、改めて整理する必要がある。	いずれ取り壊される旧校舎であったが、教員も児童も大切に使っていた。備品の管理もきちんとできていた。	夏季休業中に教具・備品を整理した。3月中旬から引越しに向けて再整理した。事務主事を中心にして教育委員会と協働し整頓と美化に努めた。	引っ越し完了を早い時期に済ませ、更に教育環境の整った学校にしていく。	

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 いじめ防止に関する取組み

本校の基本的な考え方		・「いじめは絶対許さない」を学校経営第一の核とし、教員、児童、保護者も、いじめを見逃さないことを徹底する。 ・教職員は全校児童一人一人の様子や言動の把握し、気になったどんな些細な情報も管理職への連絡を徹底する。 ・いじめに発展する言動やいじめを発見した際は、校長が第一の指導者となり、本人及び保護者への指導を徹底する。			
評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から	
	評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見	校長の態度表明
① 学校は、生活アンケートやふれあい月間、いじめ対策委員会など、計画的・組織的に取り組んでいる。	A	ふれあい月間にふわふわ言葉の取り組みをした。毎月児童理解研修会で児童や学級の状態を確認し合っている。いじめ対策委員会で検討を要する案件は少なかった。	いじめに関して深刻な案件はなく、問題発生初期段階に迅速に対応した点が評価できる。ふわふわ言葉の取り組みは保護者にも取り組みの理解を得て、年間を通して取り組んでもよい。	毎月、児童理解研修会を行い、学級や気になる児童の様子を丁寧に情報交換している成果がある。次年度は、なるべくスクール・カウンセラーも研修会に参加できるように調整する。	今後も目をかけ、手をかけ、声をかけて、寄り添った指導をしていく。
② 教師は、日頃よりいじめにつながる可能性のある事例の発見に努め、迅速・丁寧に児童にも保護者にも対応している。	A	担任、副担任、カウンセラー、管理職が頻りに丁寧にいじめにつながる可能性のある事例を相談し合っている。	担任、副担任、管理職が問題に対して迅速に対応できている。小さな相談の窓口を多くすることを期待する。	児童が訪れやすいカウンセリング・ルームや保護者が目立たずに来校できる教育相談室が整備されたので活用していく。	チームで対応していくことを心がけたい。
③ 教師自らが、人権感覚を磨き、行動や言動には細心の注意を払うように努めている。	B	叱るとき言葉が乱暴になることもある。作品や文章などに対する人権感覚はさらに磨いていく必要がある。	若手教員には中堅、ベテラン教員が指導してほしい。高学年生や粗暴な児童への指導は難しいと思うが、頑張してほしい。	厳しい指導をしたり戒めたりする際にも、教師は人権意識を常に持って臨めるよう研修と振り返りに努めたい。	常に人権意識を啓発しながら指導していく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目 7 学校独自の特色ある教育活動

本校の基本的な考え方	一人一人の児童の特性や個性・能力に応じた指導体制・内容、授業方法を取り、適切な学習環境を設定し、学力に特化した学校を創る。 ・学力の定着と向上。 ・様々なかかわりのできる子の育成。 ・健康教育の推進				
	評価指標 (取組指標)	自己評価		校区外部評価委員による評価	学校から
		評価	評定についてのコメント	自己評価についてのコメント	校区外部評価についての 教職員の意見
① 学校は、落ち着いた生活、安定した学力を第一の特色として成果を上げ、保護者や地域の信頼を得ている。	B	学校公開の保護者アンケートからは、信頼を得ていることが分かるが、落ち着きに欠ける学級もある。	地域ではよい評価を得ている。落ち着きのない学級が出たら、今後も副担任や管理職も対応に当たってほしい。	学力向上は家庭の理解も得ながら、生活の安定に関しては、日常の小さな問題への対応から丁寧に臨んでいく。	特色づくりは学校、家庭、地域の三位一体から作られるものと考え今後も取組んでいく。
② 学校は、朝読書、読書旬間、図書ボランティアなどを充実させ、読書活動を推進している。	A	図書館スタッフと連携をとり図書の時間が充実している。読み聞かせや図書室装飾ボランティアもうまく活用できている。	工事中の不便な校内にあっても図書室は憩いの場になっていた。図書館スタッフの努力やボランティアの努力も感じられる。	新校舎のメディアセンターの利用指導をしっかり行い、図書指導を充実させる。図書室利用の学級差を是正する。	読書活動が自然発生的に児童から発案されるような取り組みを考えている。
③ 学校は、体育授業、体育行事、食育などを充実させ、体力づくりを推進している。	B	栄養士が食育の授業や体験を推進している。児童の体力が低い上に、校庭改修工事が始まるので、取組の工夫をしていく。	校庭で運動できるように休み時間を学年で時間をずらす工夫をしている。次年度半年は工事で校庭が使用できないので、体力向上策の工夫が必要である。	毎朝、2～3分間姿勢を正す全校の取り組みを年間を通して行う。また、アリーナ以外にもウッドデッキなどでの遊びもできるように看護体制を整える。	体力、健康も気を配り、知徳体のバランスがとれた教育をしていく。

自己評価: A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない